

帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業【日田市】

現状と課題

- ・日田市での帰国・外国人児童生徒等の指導ができる支援体制づくりが不十分である。
- ・多言語化が進み、母語での指導で個々に対応するのは限界がある。いつ、どこから転入があるかわからない状況である。
- ・日田市教委が、人材を確保・育成し、学校の要請に応じて人材を派遣するなど、システムづくりを行うことで、当該児童生徒の実態に応じた指導体制の構築を進めていくことを目指している。

事業内容

日本語指導アドバイザー

- 日本語指導アドバイザーを招聘し、日本語指導への助言を求める。
- 派遣校を拠点とし、適切な日本語指導を確立のための取り組みを行う（個別の能力に応じた「特別の教育課程」の作成、日本語指導支援員と連携した指導内容の構築 等）



連動

日本語指導者養成研修・連絡会を実施して
指導力アップ

日本語指導支援員の派遣

- 日本語指導が必要な児童生徒数に支援員を派遣し、児童生徒の能力に応じた指導を行う

事業効果

児童生徒の日本語能力アップ
指導者の日本語指導力アップ



- 日本語指導を継続的に実施することにより、必要な支援が受けられていない児童生徒をなくすとともに、支援体制を構築することができた。
- 帰国・外国人児童生徒等の日本語能力が高まり、よりよい進路選択をすることができた。
- 日本語指導ができる人材を教職員を中心に育成することにより、市内すべての地域で支援できる体制をつくることができた。